

コラム風 危機感あおるひきこもりビジネスに喝 続信

自分の気持ちに沿って生きていい from たまりば

川崎の子どもの居場所“たまりば”(多摩リバー)、心温まる記事(朝日新聞神奈川版“ひとまち平成の姿 5”)が新春1月7日に掲載された。「何をしなさいって言われないんです。何でも自分で決めて、何もしなくてもいい。自分の気持ちに沿って生きていいんだなって」。小学校2年生で不登校になり小6まで“たまりば”で過ごし、私立中から留学を経て米国で就職、結婚された37歳女性のことばを紹介、4人の子どもを連れ25年ぶりに訪問とのこと。“たまりば”理事長西野博之さんは「子どもにとって遊ぶことは生きることそのもの」「孫を連れて実家に帰って来てくれたみたいだよ」と語る、と記事はまとめている。

西野さんは僕より年下(笑)、居場所の先輩として尊敬する人物だ。子ども若者に寄り添う実践から学ばせて頂いてきたので喜んでこの記事を読んだ。同じ経験を重ねる僕は子ども若者の育つ力には驚かされる。

しかし先月中井町へ足を運びワンステップスクール湘南校のトラブル(共同通信社発信神奈川新聞報道“ひきこもり施設の10人保護”)報道について上記“たまりば”記事と比較検証しつつの僕の見解を表明します。



ワンステップスクール(中井町)から保護された若者は…

施設とはワンステップスクール湘南本校(以下スクール)、母体は一般社団法人若者教育支援センター、代表理事・校長広岡政幸氏:本部ワンステップスクール本部校東京代々木高等学校、湘南本校、横浜校、御殿場校、ニュージーランド校。改めて課題を整理してみる。

「納得できないまま入所に同意したが、このまま居続けても未来はないと思った」「風邪をひいて頭がぼーっとしていた。『行かない』と何度言っても聞いてもらえず、いいかげん疲れてしまった」「スタッフが突然自宅に現れ、無理やりスクールに連れて行かれた」と、保護された男女6人のインタビューを掲載、保護を求めた理由を報道している。

納得の上の入学? 親や家庭の人権も侵されている!を問う

広岡校長は「どうして施設に行くのかを説明し、全員、納得の上で入学願書や入寮同意書にサインしている。行きたくないのなら、なぜスタッフについて行ったのか」「本人が人権侵害だと言うなら、そうでしょう。だが親や家庭の人権も侵害されている。家庭内暴力など様々な事情があり、彼らが家にいることで経済的、体力的、精神的に追い詰められている。われわれが自宅を訪問するのは緊急性の高いケースだ」「入所者の10~15%がいろいろな理由で抜けだす。本来は親子で解決すべき問題だが、われわれが間に入るため、こちらへの不満が強くなるのだろう」「(窓に付けられた)ストッパーはベランダに出ると落下の危険性などがあるため、カメラは万が一、入所者が職員に危害を加えたら記録するのが目的だ。建物は自由

に出入りできるようになっており、法に抵触するようなことは一切ない」と説明している。

## 社会的正義と善意の関係性を問う

家にとじこもる不登校や社会的ひきこもりとの子ども若者に関わる私たち第三者には心しなければならぬことがある。「社会的正義＝社会の役に立つ」「善意の関係性＝本人と家族に喜ばれる」の危うさ、正義と善意が子ども若者の自由と尊厳を汚す危険性をはらんでいることを肝にすることだ。相談に来た人にも、居場所に来た人にも、そして施設入所した人にも、社会正義を振りかざし、愛と誠の関係性を押し付けてはいけないことを！ ましてやその親や家族の困り感を優先し危機感をあおり、生活保護や金銭取引を安易に進めてはならない。



「10人保護」，“保護”と切り取られ報道されるスクールが問われる。施設を飛び出す自由は当然なのだ。その前提は、ひきこもり若者に「親や家族の人権も侵害されている」という社会的正義、偽善である。ひきこもり若者は「緊急性の高いケースである」という関係善意はヒロイズムの演出でしかない。スクールと名乗る会社経営者が陥る偽善と演出を痛感する。

「家族の人権の侵害」「緊急性の高いケース」の強調は、結果正義と善意への居直りとなり進撃の歩を強化する。当然のように「行きたくなのなら」行くな！ 「(ストッパー)は落下の危険」防止！ 「(カメラ)は危害記録」防衛！ となっていく。これらの居直りは会社経営のリスクマネジメントを逸脱しているのである。生徒の落下を防ぐために窓にストッパーを設置する学校が全国にいくつあるだろうか？ 生徒による危害記録の為に監視カメラを設置する学校がいくつあるのだろうか？ 何よりも「スクールに行きたくない生徒は行くな」とは経営放棄でしょ…それでも不登校の子どもたちは学校へ行かないのですが。

## スクールは居場所機能を崩壊させている

「自分の気持ちに沿って生きていいんだ」と不登校から25年経っても“たまりば”を実感し言い切れる4児の母は、居場所の存在意義を語っている。対してスクールを逃走した若者は「このまま居続けても未来はない」「何度言っても聞いてもらえず、いいかげん疲れてしまった」とスクールが居場所ではないと言い切る。「建物は自由に入出入りできる」と説明するが見えてくるスクールは刑罰を受ける監獄の如くである。なぜなら、外の間人間がかかわらないと保護できない、自発性を監視し去勢する体制がスクールにはあるからだ。再度言えば外部者の力を得ない限り自由への逃走が実行できない、保護でしか実現しない仕組みがある。広岡校長はインタビューに答え「10～15%が抜け出す」と認め、逃亡者を生み出すスクールとは是認する。ひきこもりの若者を、刑期を終えずに逃げ出す犯罪者と扱う経営観を感じる。

僕たちは1980年代戸塚ヨットスクール事件、1990年代オウム事件等の監獄型異世界で強殺された若者たちを知っている。スクールの保護事件は過去への忘却を意味する、猛省を促したい。なぜならば広岡校長はホームページ(HP)で次のように語るからだ。

## 活動の公開性と地域と共に を願う

「一年を振り返りますと、『忍ぶ』ことの大切さを学び、たくさんのご縁を頂き、皆様と本当に深い絆を結べたと実感しております。しかし、一方で悪意を持ち、執拗に攻撃してくる輩もいました。その代表である「精神科医 齋藤環」が同年7月に複数の寮生を連れ去った事件も相手側の情報操作でスクール側が悪者のようなニュースを流されてしまいました。でも、まったく動じなかったです。保護者会も全面的にバックアップしてくれました。痛さを我慢して「耐える」というより



も、痛ささえも感じない自信、たくさんの仲間が守ってくれる安心感で「忍ぶ」ことができたと感謝しています。」—広岡政幸【公式】サイト <https://masamills.com/blog/1618.html> 参照

僕の訪問に応え電話を頂いた広岡氏は、入所者の親の苦しみを強調し、手に負えない多様な子どもの姿を訴え、外部者の悪しき関わりを強調、10人中3人行方不明とも言及する。

そこで中井町福祉行政に伺うと「内部については把握していない。地域と交流がなく開かれていない実態」と。先の HP では「精神科医齋藤環」と名指し“悪意”とさげすむ姿勢にも残念至極。僕は**活動の公開性と地域と共に**が、陥りやすい偽善とヒロイズムを問いたただけると確信している。ボランティアグループ未来、NPO 法人アンガージュマン、そして子ども若者応援団活動を進めてきた礎、結論です。一度スクールをクローズされることを切に願います。



初日の出 in 久里浜 by 川辺悟史

## 地域こそが未来 人を人と思う

朝日新聞1月16日夕刊文化欄“思考のプリズム”で、國分功一郎氏が「哲学者ハンナ・アレント『全体主義の起源』を執筆、引用しながら結びます。

「…大衆社会とはつまり、階級のような人々の帰属先がなくなった時に出現する社会に他ならない。…大衆社会では人はいかなる社会集団にも属してはいない。…『大衆は共通の利害で結ばれてはいない』…。…戦後の日本は…いわゆる中間団体がいくつも存在していた。様々な利益団体、労働組合、職業団体、終身の雇用先として企業などである。それらは近年、グローバル化の波によって、規制緩和の名の下に解体されていった。…それは一見したところ自由の実現にも見える。人はただの個人になったのだから。しかしその個人たちは相互にバラバラになった社会の中でスローガンによって砂のようにサラサラと流される。…だが、何らかの価値観や利害関心を共有し、それに基づいてむしろ**スティッキー(ネバネバしていること)**に主張し続ける営みがなければ、民主主義は正常に機能しない。…私が考えるのは**地域**」

僕は國分氏の発信を受け、スクール事件の真髓に気づいた。社会的ひきこもりに悩む親や家族を利害で共有し、(家庭)社会から排除し地域に開かれていないスクールに若者を隔離する、それが今回の事件である。そこでの再教育は地域を遮断し個人の人格矯正へ進んだ。そうではなく、**ネバネバしたスティッキーな地域こそが公共性・公平性を機能させ、偽善やヒロイズムを洗い直し保護事件を発生させない**のである。地域が育て地域で育つのだ。

成田洋樹記者(右写真 神奈川新聞社「時代の正体」でファイザー医学記事賞受賞)は藤沢の講演会で「人を人と思えない社会に立ちむかう」と言い切った。津久井やまゆり園事件等の取材から情報公開と地域に開かれる示唆を基調とつつ。さて社会的ひきこもりは高齢化するが、人がそこに居る。常に開かれ共に歩む。



**それぞれの風** ○先日は滝田さんの思春期講座(in Largo)を受講させていただきました。ありがとうございました。・子どもは成長したいと願う ・おもしろいから、興味を持ち学び解決できる この二つの言葉が印象に残りました。子どもたちの夢や希望、前向きな気持ちはつねにあるんだという事を思い出しました。また、自死された方の、先生は「勇気を出して学校に来い」という。私は「勇気を出して学校を休んでいる」のだ。これも改めて、大事だなあと再確認させていただきました。ありがとうございました。講座の後で、滝田さんに大変うれしい言葉をかけていただきました。「これからは沢さんの時代だ」と。実際はともかく、このように言っていただき、勇気

をいただきました。とても嬉しく思っております。ただ講座を受講しまして、改めて滝田さんのされている幅広い社会的な活動と、私のカウンセラーという小さな個別相談というカタチでの活動は、次元が違ふと感じました。私には、とても滝田さんのようにNPOを立ち上げ、地域の若者たちをまとめ、活動として皆でやっていくような、大きな動きというものは、私にはできないなあと感じています。たとえば、ケース会議ですが、参加してみて、私は「今後も地域の一員として、学校に積極的に関わっていこう！」と思うより、「面接室でお会いして、お母様のカウンセリングをがんばろう！」と思うのです。私がケース会議で代弁してしまうのではなく、その役目をお母様ができるようになることが、私のカウンセラーとしての勤めだと思っております。滝田先生のお言葉は、勇気が沸き、大変嬉しかったのですが、これからは私は社会の片隅の小さな一室でのカウンセリングを中心としてやっていくカウンセラーです。常に脇役でいようと思っています。黒子の役が一番自分の力を発揮できるように思っております。(沢雄司さん)

※メッセージありがとうございました。学び教訓として受け止め掲載させていただきました。沢さんは臨床心理士、かまくら相談室主宰 <https://www.soudan-en.com/> 多方面で活躍中です。

## チケット準備できました Jazz piano 親と子の絆きつとつながる



横須賀市後援が承認されチケットも印刷ができ、本格的にスタートします。出演者も2月10日に打ち合わせをいたします。改めて趣旨を掲載します。「世の中には、いきづらさを抱えて生きる子ども達が、今、沢山います。我が子だからこそ母は苦しみ、他の子がついつい羨ましくなったりする事も。“親と子の絆きつとつながる”でも、いつか我が子もきっと大丈夫と思える未来が来ることを信じているお母様へ、歌や演奏、そして書道パフォーマンスに乗せて応援歌をお届けします。」



☆日時 2019年3月22日(金)開場18:00 開演18:30 終演20:30

☆場所 横須賀市はまゆう会館(JR 衣笠駅下車 徒歩約8分)

☆参加費 1,000円 ☆出演者 jazzピアノ:高比良秀一、歌手:山下直子、  
書道家:長谷川ひろみ、他演奏者、+母親トーク

☆運営会議 & 応援団会議(プログラム等) 2月17日(日)午後2時~4時

仮称 **運営委員会** & 応援団会議(分担係等) 3月3日(日)午後2時~4時

**2月予定** ○2日(土)pm1:不登校相談会(県学校フリースクール等連携協議会主催)in 小田原市生涯学習センターけやき ○4日(月)pm4頃:藤沢市教育委員会協議、pm7:横須賀市支援教育推進委員会 ○9日(日)pm2:思春期講座②講師 in Largo ○10日(日)pm2:不登校・ひきこもり親子支援講演会(NPO ぜんしん主催)講師 in 平塚市民活動センター○13日(水)pm1:子ども・孫とどう育ちあうか講演会(港北区保護女性会主催)講師 in 港北区 17日(日)pm2:横須賀応援団会議・マジェスティック・リトルエジソン in 横須賀サポセン ○23日(土)am10:西鎌倉教育懇話会講師 ○24日(日)pm1:逗子応援団会議・ひきこもり発信プロジェクト&ゆずりはの会 in 逗子市市民交流センター pm1:外国人政策と多文化社会の未来~かながわで共に生きていくために in 韓国会館 ○鎌倉市教育センター:1日(金),6日(水),8日(金)深沢小,12日(火)大船小,19日(火)富士塚小,20日(水),22日(金),26日(火),28日(木) ○Largo:5日(火)、21日(木) ○研究所相談:14日(木),21日(木)

【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール: [qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp](mailto:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp) ●研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>